

1. 第20回OB総会・懇談会

第20回OB会総会は4月7日（金）日本青年館で60名の会員が参加して開催された。伊藤幸郎理事の司会で始まり、この1年間にご連絡いただいた逝去された8名のOBに黙祷が捧げられた。

(1)大谷OB会長あいさつ

今総会は、遠方からの参集もあり、お元気な顔見られたことは嬉しい。振り返って見ると、この一年、社会情勢はめまぐるしく変わっている。郵政改革を進める小泉内閣への不安も小泉圧勝で終わった。今年秋の小泉後継問題がある。野党民主党の混乱はあったが、2大政党のもとに政治をしっかりと欲しいと思うこの頃である。

建設業に関しては昨今、世間では談合が悪だと批判が厳しい。われわれが入社した当時の建設業は国の根幹を担う基幹産業として、張り切って現場に出て汗を流した記憶がある。談合を排除する流れの中で超大手建設業は率先して談合をやめる動きにあると言うが、本当に談合がなくなった時の建設業界の姿が私には想像が難しい。超大手で土木の官庁工事に予定価格の4割、5割の入札などが見られ、これを世間が歓迎していることに不安を感じる。

少子高齢化では、わが国の今後が危ぶまれる。先の大戦で男性が戦場に行き女性が職業に付き社会に進出した歴史があるが、定年をはずして高齢者ももっと働く動きが出てきている。

本日出席の皆さんも体力的に余裕があるが、どのようにして働くのか、個人差もあり世の中の要求も変わってくるのではないだろうか。第一線を立ち退いたわれわれにもやれる役割があるのではないかと話したい。